

1. 研究課題名：

赤潮発生時のデータ観測システムによる  
養殖業の漁業被害軽減に関する研究

2. 研究代表者氏名及び所属：

芝田 浩（広島商船高等専門学校 電子制御工学科）



3. 研究実施期間：平成 24～25 年度

4. 研究の趣旨・概要

赤潮は、種々の対策が施されつつあるが、毎年発生し甚大な漁業被害・環境悪化を伴う重要な社会・経済問題である。現状では、赤潮の根本的な原因究明と対策には至っておらず、発生そのものを防ぐことはできていない。そのため、赤潮が発生すると、養殖施設を制御することで養殖魚への影響を最小限に抑えることが重要である。その対策には、赤潮の分布や移動状況を把握し、被害を最小限に抑えるための観測システムが必要である。本課題では、赤潮の状況をリアルタイムでモニタリングする観測システムを実現し、このシステムを使用した現地観測を実施する。さらに、システム改善と機能拡張により、赤潮経路予測と漁業被害低減への適用を考察する。

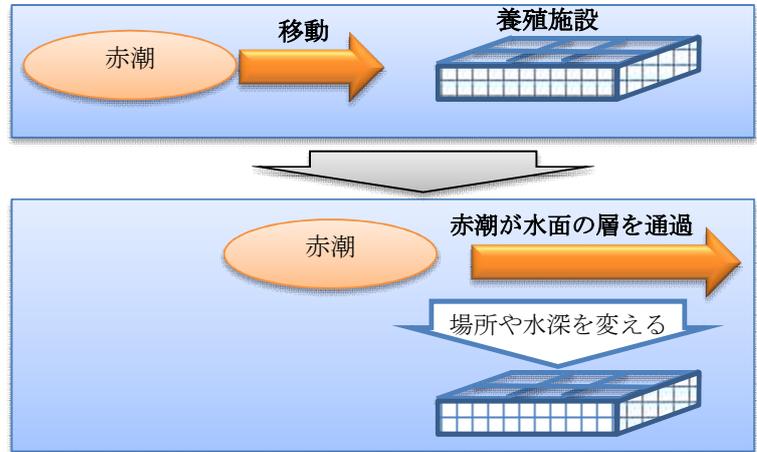
5. 研究項目及び実施体制

- ①赤潮発生時のデータ観測システムによる養殖業の漁業被害軽減に関する研究  
（広島商船高等専門学校）

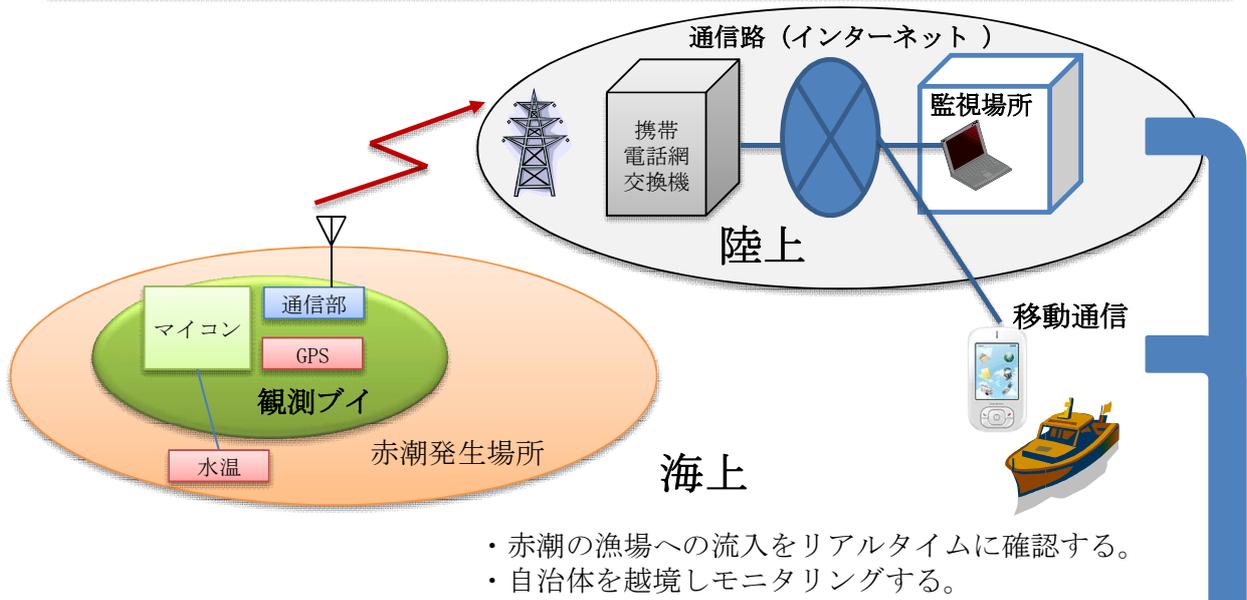
## 6. 研究のイメージ

### 研究背景

- ・赤潮は、対策を施されつつあるものの、毎年のように発生し漁業被害・環境被害を伴っている。  
⇒ **重要な社会・経済問題**
- ・赤潮に対して、現状では根本的な原因究明と対策に至っていない。  
⇒ **発生そのものを防止することはできていない。**
- ・養殖施設をコントロールし、養殖魚への影響を最小限に抑えるのが現状の対策である。  
⇒ **赤潮の分布や移動状況をモニタリング**



赤潮の状況を把握し、被害を最小限に抑えるための、観測システムが必要



赤潮の分布や移動状況のモニタリングデータを漁業被害低減へ適用

- ・赤潮の状況に合わせて養殖場の設備位置をコントロールし被害を最小限に抑える。

赤潮の発生・移動の実態解明と地球環境の保全・食糧対策への寄与